

タイトル：『汐製菓会社の新作88ヌガー3』

シーン：汐製菓会社オフィス（約10分）

（朝のオフィス。社員たちが忙しく働いている中、汐製菓会社社長・汐が社長室から元氣よく登場する。）

汐「おはよう、みんな！今日は新商品の発表をするぞ！」

（社員たちは一瞬驚き、すぐに汐の周りに集まる。秘書の塩田が一步前が出る。）

塩田「社長、今日の新商品は何ですか？私、ドキドキしています…。」

汐「それはね、『ケバブ味のヌガー』だ！」

（社員たちは一斉に固まる。困惑の表情を浮かべながら、疑念の声を上げ始める。）

社員A「ケバブ味：ヌガーって、甘いお菓子で
すよね？それに肉のスパイスって…？」

社員B「そんな組み合わせ、誰が食べるん
だ？社長、ほんとにそれで大丈夫なの？」

（汐がにこやかに手を広げて、自信満々に語
る。）

汐「大丈夫！面白いこともない世の中に、
我々が笑いを届けるのだ！これが成功すれ
ば、世界中で話題になるぞ！」

塩田（内心）「また社長の独特な発想に振り
回されるのか…でも、彼の情熱にはいつも驚
かされるな。」

シーン2：試作開発室（約15分）

（開発チームが集まる試作室。白衣を着た職人たちが集まり、「ケバブ味又ガー」の試作を始めている。）

職人A「まさか、ケバブのスパイスを又ガーに入れるなんて…これは本当に挑戦だな。」

職人B「でも、やるしかないだろう。社長がここまで言うんだから！」

（塩田が開発室に入り、職人たちの試作を守る。）

塩田「皆さん、試作がうまくいっているといいですが…。味のバランスが難しそうですね。」

（職人たちがスパイスや材料を並べ、試作に取り掛かる。）

職人の「さあ、どうなるかな…ケバブの風味が又ガーに合うのか、まったく想像がつかないけど、やってみよう！」

（様々なスパイスを加え、試行錯誤の末、ようやく完成した「ケバブ味ヌガー」がテーブルに並べられる。）

塩田「では、私が試食してみますね…（恐る恐る一口食べる）」

塩田「うわ、これは…甘いけど、ちょっとピリツとする!？」

職人「それが狙いなんだ！食べてみて、次に何をするか決めよう！」

シーン③：国内試食イベント（約15分）

（大型ショッピングモール内の試食イベント会場。カラフルなブースが設営され、「ケバブ味ヌガー」の宣伝ポスターが目立っている。）

汐「さあ、みんな！新しいスイーツの登場だ！

『ケバブ味ヌガー』を試してみて！」

（通りかかった客たちが足を止め、興味深そうにブースを見つめる。塩田が試食を差し出す。客たちは戸惑いの表情を浮かべる。）

客A「ケバブ味のヌガーって…想像がつかないけど、勇気を出して食べてみるか。」

（客Aが一口食べ、瞬間、驚きの表情を浮かべる。）

客A「…え？これ、意外とイケる！甘さの中にスパイスのアクセントが…クセになる！」

客B「どれどれ？（一口食べて）あれ？これは、意外と美味しい！なんか止まらない！」

（次々と試食する人が増え、ブースは賑わいを見せる。塩田も安心した様子で様子を見守る。）

塩田「良かった…好評みたいですね。でも、どうなるか心配でドキドキします。」

シーン④：海外市場の試食イベント（約20分）

場所①：フランス・パリ

（フランスのショッピングモール。華やかな装飾が施されたイベントスペースで、汐と塩田が「ケバブ味ヌガー」の試食ブースを設営する。）

汐「ボンジュール、皆さん！日本からやってきた新しいスイーツ、『ケバブ味ヌガー』です！ぜひお試しください！」

（初めは警戒しつつも、客たちが試食を始める。汐が明るい笑顔で一口食べるよう促す。）

フランス人男性「これは…甘いのか、辛いのか、どちらの顔も持っているようだ。意外と悪くない！」

フランス人女性「この味、まるでアートのようだ。甘さとスパイスのバランスが新しい発見だわ！」

（客たちが次々と試食を楽しみ、ブースは賑わいを見せる。）

塩田「意外と評判が良いですね。私、正直ドキドキしていましたが…！」

（次々とお客が並ぶ中、汐が笑顔で試食を勧める。）

汐「もっと食べてください！これが新しい挑戦の味なんです！」

場所～アメリカ・ニューヨーク

（ニューヨークのフードフェスティバル会場。活気あふれる雰囲気の中、汐と塩田が大きなブースを展開している。）

汐「さあ、皆さん！日本の新しい味、『ケバブ味ヌガー』です！ぜひ、一口食べてみてください…」

（ニューヨークカーたちが試食を開始し、驚きの表情を浮かべる。）

ニューヨークカー「これは完全に新しい！甘いのに、スパイシーな香りが残るのが面白い！」

ニューヨークカー2「この組み合わせ、最高だ。友達にも教えたい！」

（周囲の反応がSNSに投稿され、「#ケバブ味又ガー」というタグが急速に拡散されていく。）

インフルエンサー「皆さん、これが日本からの新感覚スイーツ、『ケバブ味又ガー』！必見ですよー！」

（周囲が一気に盛り上がり、汐と塩田はその様子に嬉しそうに見入る。）

場所…中東・ドバイ

（ドバイの豪華なホテルでの試食会。洗練された内装の中、国際的なゲストたちが集まり、汐と塩田が「ケバブ味ヌガー」を試食している。）

汐「アッサラームアライクム！新たな文化と味の融合、ぜひご賞味ください！」

（客たちが興味深そうにヌガーを手に取り、一口食べる。）

中東の客「これは我が国のケバブの味と、日本の甘さが組み合わせだったものか！面白い発想だ！」

中東の客「この味、ぜひ多くの人に広めたい！食文化の新しい可能性を感じる。」

（汐と塩田は客たちの熱心な反応に嬉しさを隠せない。）

塩田「まさか、ここまで受け入れられるとは
…。これが成功すれば、次の展開も考えなき
やですね！」

汐「そうだ、文化が混ざり合う場所だからこ
そ、新しいアイデアが生まれる！みんなの意
見を取り入れて、次のヌガーを作り上げよ
う！」

（拍手が起こり、汐と塩田は次の挑戦に向け
て力強い意気込みを持って進んでいく。）

シーン5：試食イベントの反響と混乱（約
10分）

（試食イベント後、SNSでの反響が爆発的に
広がり、会社に注文が殺到する。しかし、特
異な味に戸惑いや苦情も相次ぐ。）

社員の「社長、原材料が足りません！特に
ケバブのスパイスが……」

（社員が焦りながら報告するが、汐は明るい顔をしている。）

汐「心配ない！これこそが我々のチャレンジだ！受け入れてもらえるはずだ！」

塩田「でも、苦情も増えてますよ…』食べられない』とか『あり得ない』って声もあります。」

（汐が塩田に目をやり、少し真剣な表情になる。）

汐「そうか、だが新しいものはいつも批判を受けるものだ。重要なのは、その中から次のステップを見つけることだ！」

（社員たちも汐の熱意に応えようと、試作を重ねることを決意する。）

社員O「社長、私たちも頑張ります！新しい味を追求しましょう！」

シーンの…最終的なブームの盛り上がりとして
新たな課題（約10分）

（「ケバブ味ヌガー」がメディアでも取り上げられ、汐製菓が一躍有名になる。塩田が社長室に入ると、汐が次の企画を考えている。）

塩田「社長、ケバブ味はヒットしましたが、次の企画はどうするんですか？」

汐「次はもっと大胆にいきましょう。『タコス味のヌガー』なんてどうだ？」

（塩田が目丸くし、心配そうに彼を見つめる。）

塩田「それは…また大胆ですね。でも、社長のアイデアなら、何が起こるかわかりませんからね…。」

（汐がニヤリと笑い、次なる挑戦へ向けての意気込みを見せる。）

汐「人々はいつでも驚きを求めている。新しい体験を提供し続けよう！」

（周囲の社員たちも彼の意気込みに感化され、新たな挑戦に向けて動き出す。）

エンドロール

（陽気な音楽が流れ、試食イベントの様子や開発の裏側、社員たちの表情が映し出され、観客に明るい余韻を残して終わる。）